



# おちほ

第75号 平成25年3月15日 発行 社会福祉法人 椎の木会 落穂寮 発行者 太田 正 則  
TEL 0748-77-2299 FAX 0748-77-5588 <http://ochiho.noor.jp/>

## ～四十二年共にすごした建物～

### さようなら 管理学習棟…



昭和四十五年(1970年)に南郷から移転してきた当初からの建物であり、四十三年間落穂寮の『顔』として利用者・職員を温かく見守ってくれていた管理学習棟が、この度改築されることになり取り壊しが決定しました。

この歳月の中で、管理学習棟自体も増築や改装が行なわれ、月日の流れと共に変化してきましたが、耐震基準を満たしていかない等の理由で、大規模な建替えが行なわれる事となりました。

現在入所中の利用者さんで管理棟が建ったばかりの時を知っておられる方はわずか五名程です。

沢山の利用者さんを送り出し、迎え入れた管理学習棟。

今、また落穂寮の時代の転換期を迎える事になりますが、今後にワクワクする気持ちがあるもの、長年共に過ごしてきた、落穂寮の歴史が染みついた管理学習棟が無くなる事に寂しさを感じずにはいられません。

四十三年もの間、お疲れ様でした。

おじぞうさん  
移転

理事長 山下陽一

## 六体のお地藏さん

落穂寮の坂を上った左側、事務所の玄関先十メートルのところに屋根は銅板葺き、一メートル四方の小さな地藏堂がありました。今から四十三年前大津市石山南郷から移転の時に現在地に移ってきたものですが、移転後は仮安置から現在のプールの北側にありました。十三年前、成人施設建て替えのために事務所前に移しましたが、今回の事務所・体育館の建て替えのため、グラウンド東寄りに四度目のお移りをいただくことになりました。

田村一二先生の作品に「糸掛け地藏」があります。おそらく全国どこにもないお地藏さんだと思いますが、きつと機織が上達するようお願いごと成就のため五色七色の糸を掛けるということなのでしょう（このお地藏さん実際どこかにあっても不自然ではないような気持ちがあるのですが、本当に田村先生独自の世界だったのでしょうか）。落穂寮の地藏堂には六体のお地藏さんを安置しています。毎年八月末の地藏盆には「まえかけ」を新調し花などのお供えをして全員座して一人ひとりが合掌し健康と安全を祈ります。「糸掛け地藏」を拝見したとき、六地藏の由来を先生に尋ねました。それによると、生れ変わるには六つの道がある。その

道案内とその人たを救済する、ということでした。死にゆく道の案内ではなく、生まれ変わる時の道標とは！

## 「魂（たましい）」を抜き差しする

前回もそうでしたが、地藏堂移転には三重県桑名市に三百年続く古刹のご住職のお勤めにより移しました。（渡辺住職は写真家でもあり四十年前、現女子棟の最古参、悠子さん、孝子さんなどを世話していました。）

このお勤めとはお地藏さんから「魂」を抜いてモノにして移し、安置した後「魂」を込めるといふ二つの法事を営むのですが、このプロセスは仏壇のある家庭では一般的です。

日本というよりも東洋の宗教において、「モノ」に祈りを込めることにより神聖視される、ということが宗教行事に組み込まれています。奈良の東大寺大仏開眼供養はそのもっとも大きな国家事業だったようで、天皇・皇后をはじめ僧俗庶民一万余千人が参拝するという大イベントが執り行われました。祈りを込める法要により巨大な青銅の「盧舎那仏（るしゃなぶつ）」像はご本尊となって荒廃した世を救済するわけです。わが地藏堂の法事は東大寺大仏の「開眼供養」の規模に及びませんが、それと同じコトを私たちが行なったのです。

## 「モノ」と「ハナム」

地藏堂を移すにあたりお地藏さんの「魂」を抜いて「石」として運び、この「石」に再び「魂」を封入し「お地藏さ

ん」とするといふプロセスについて「非論理的だ！」「偶像崇拜だ！」、という声が聞こえそうですが、この二つの批判は共通していて、東洋思想と西洋思想の立脚点の差といえるものがあります。しかもこの問題はそれぞれの立場を基盤にしている哲学者・宗教家たちを二分し大いに論議を盛り上げさせる事柄なのです。そのような奥深い内容を含む問題ですから簡単に決着をつけるつもりはありません。（個人的には大いに燃える問題なのですが）

キリスト教を軸とする西洋思想では一般的に精神と肉体が二分されている、とされます。キリスト教における祈祷では「父」と聖霊の御名において」とされ、イエスの「肉体（モノ）」は「聖霊（みことろ）」により「神の御子」となるといふ構造となっています。「モノ」と「ことろ」は次元を異にしている。キリスト教的考え方というのはまさにこの観点が基盤になっており、それに沿った考え方が論理的なことの立脚点とするなら、「モノ」と「ことろ」が統合的に合一体となっているという東洋思想は「非論理的だ！」ということになるのではないかと思います。

西洋思想・東洋思想の構造的な差を簡単に説明する力はありませんが、概括的に「西洋の二元論」に対する「東洋の一元論」といふことが出来るのではないかと。しかも、二元論と比較すると一元論は無限の奥深さが求められているのではないかと。以前この紙面で田村先生のことば「二つ一つ」について述べましたが、根本的に相違する二つの立場があったとしても、焦点を二つ持つ楕円体のように幅広く奥深く一つに包み込む観点が東洋

思想の根底となっているのではないかと考えています。

地球規模の平和・環境・格差などの問題において国境を越えた包括的な思想体系が求められています。これらの問題に諸々の宗派を超えた世界的な新しい動きが連動しています。現代社会にあつてさまざまな思想と行動原理を持った対決は「文明の衝突」として明らかのようにと試みられましたが、新たな動きとして日本の哲学者が注目されています。今から百年前哲学者・西田幾多郎の著作「善の研究」が多数の国語に翻訳されていることからこのことがうかがえます。西田は西洋哲学と東洋哲学を両側面から位置づける思想として体系の完成を目指しました。

## 今ここで祈る

今の公教育では宗教教育は禁止されていますが、宗派教育ではなく「祈ること」の持つ「意味の深さ」は行事を通して感ずることが出来ます。奈良大仏の開眼法要は荒廃した世相の安寧を祈願するものでしたが、私たちの石地藏さんの移転に当って改めてお祈りし弱い立場の人たちや幼い人たちの幸せと健康を祈りました。大仏開眼とお地藏さんとはそれぞれの規模に差はあっても同じ「願い」を込めています。その意味を深く意識しているわけではありませんが毎年祀り続けています。お地藏さんに祈ることは意識しないところで戦争・貧困・環境などについて世界を変えることに繋がっています。なんともありがたいことではありませんか。

# 明日の笑顔につなげるために

施設長 太田 正則

## 多目的学習棟

### 改築工事にあたって

大津は南郷の地から一九七〇年にこの湖南市（旧石部町）東寺に引越してきてから四十二年間、児童施設としての役割から成人施設としての役割に変化はあったものの多くの子供たちが落穂寮を巣立ち、または利用してこられました。そしてそこには利用者の家族はもちろん地域の皆さん、多くの職員やボランティア、その他関係者の皆さんがその巣立ちに関わり、見守ってきました。

体育館では、五月は開寮記念日、七月は七夕、九月はお月見、十一月は同窓会、十二月はお世話になった人たちを招いて総勢三百人入程のクリスマスパーティが行なわれ職員劇を披露。三月には一年の学習の成果を見ていただく最大のイベント「学習発表会」が行われ大いに盛り上がっていました。管理学習棟（事務所のある建物

です）は落穂寮の玄関としての役割を果たし、来寮された方を一番最初に迎えるところでした。これまでの来客の中では珍客としてフクロウさんの訪問が一番ではないでしょうか。この建物では、療育・入所相談や面談、母子短期療育事業の受け入れを始め地域交流、職員面接や研修、夜遅くまでの会議の場としてフル回転してきました。近年では、法人の役員会会場としてもその機能を果たしていました。これら二つの建物は昭和四十五年に国・県・日本財団（日本船舶振興会）の補助及び助成金を得て建てられたものでした。

一方、中央競馬馬主社会福祉財団から助成金を得て建てられた職員宿舎兼車庫倉庫は独身男子職員の宿舎として、またマイクロボスやキャラバン、トラックなどの維持管理にその役割を十分に果たし、近年では通勤職員の休憩場所として活躍していました。

しかしこの度、これら三つの建

物が耐震基準を満たさないことや老朽化が著しいことから国・県の補助金を得て改築する運びとなりました。ここにあらためて助成していたいただいた各団体にこれまでの感謝の意を述べるとともに、これからも引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

さて、これらの建物には多くの方が様々な思い出をお持ちなのではないでしょうか。良い思い出も良くない思い出も、落穂寮に何らかの関わりがあった方々の多くは、今現在の皆さんの生き方に深く大きく影響を与えているのではないかと思います。それは私自身はその一人だからです。

人は一人では

生きられないこと。

生きているのではなく

生かされていること。

命があるということに

価値があること。

全ての言動には

必ず理由があること。

人が育まれるには

環境が全てであること。

課題は自分自身にあること。

思い出の話まったものが姿を変えていくことは、これから先は記録と記憶でしか会うことはできません



職員宿舎 兼 車庫倉庫



管理学習棟



体育館

が、落穂寮がこれまで果たしてきた役割の中でお世話になった皆さんとの関係や培った多くの支援技術と施設機能を十分に活かして、職員集団も建物も新たな形でみなさんに支援を提供できるようにしていきます。

平成二十五年九月頃には新しい顔（玄関）で皆さんをお迎えることが出来ると思いますので、その時はぜひお越し下さい。

(二〇一三・二)





☆デイナー☆

# ★ Merry Xmas ★ クリスマス会



☆音楽班☆



☆プレゼント渡し☆



☆ダンス班☆



今年もみんなが楽しみにしていたクリスマス会が行われました。クリスマスに向けての準備の段階で何名かの利用者さんは感づいておられ、ソワソワとしておられる方も多かったです。そんな中、今年も落穂にサンタがやってきました。  
今年久しぶりにランチではなく、デイナーだったので皆さんいつもと違う雰囲気を楽しんでおられました。そしてついにみんなが待っていたサンタさん登場！利用者さん一人ひとりにプレゼントが渡されるたびに、利用者さんの喜ぶ顔が見られました。これがあるから毎年続けるのだと感じさせられるものでした。  
さて、また来年もサンタさんは来るのでしょうか。来年を楽しみに！



☆有志☆



竜王  
アグリパーク(日帰り)



木之本  
北近江リゾート(日帰り)

京都  
梅小路公園(日帰り)



日野  
滋賀農業公園ブルーメの丘(日帰り)

伊勢  
伊勢神宮(日帰り)



# リフレッシュ 旅行 Vol.1



伊勢  
安土桃山文化村(日帰り)



敦賀  
おさかな街&温泉(日帰り)



高島  
びわ湖こどもの国(日帰り)



三重  
海水浴(一泊二日)



神戸  
フルーツファーマーパーク(日帰り)







**岐阜 飛騨・高山** 格子造り体験 & かまくらづくり



東京 夢の国 東京ディズニーリゾート



# リフレッシュ旅行 Vol. 2 2012



長野 気球&マウンテンバイク2日



大阪 「お母さんと一緒コンサート」



栃木村 魚つり体験



静岡 S1列車の旅



和歌山 マリーナシティ&体験(1泊2日)





# 今年も ありがとうございます。

今年も12月8日に、落穂寮にN E C労働組合の皆さんがランプ交換に来てくださいました。毎年、年末の忙しい時期に有難うございます。玄関から、生活棟まで、テキパキと手際よく古くなった蛍光灯を交換してくださいました。脚立の上での作業を下から珍しそうに眺める利用者さんもちらほら。新しい蛍光灯の灯りの下、利用者さんの笑顔もいつもより輝いて(?)見えるように感じることができました。こうして毎年来てくださることで、利用者の皆さんが、社会の多くの人たちに支えられていることが、実感として伝わってきます。それは本当に嬉しいことです。

また、これからもより多くのお願ひします。



## 石部中 ふれあい 交流 2012

年度最後の報告となつてしまいましたが、今年も六月と十月に石部中学校から元氣いっぱい的一年生の皆さんが交流に来られました。春には利用者さんとの関わり方が分からずに戸惑つておられた中学生さんも、秋には再開を喜ばれたり、ペアになった利用者さんが喜ぶように声を掛けたりしながら関わりを持っていただけました。

中学生の皆さんの半年の驚くべき成長を感じつつ、楽しいひとときを過ごさせてもらいました。

また、いつでも気軽に遊びに来て下さいね。



ステキな  
プレゼント  
ありがとう☆



# 泉

平成24年度も終了しました。長いようであつたという間の一年でした。さて、平成25年4月から「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）」が施行されることになりました。これまでの「障害者自立支援法」は廃止となりました。

そして、現状を反映していないと、批判の高かった「障害程度区分」も「障害支援区分」と名称が変更されました。その名の通り、適切な「支援」を保障してくれる制度となればと思います。ただ、この法案を通した野田内閣はすでになく、政権交代も行われました。新たな政府の元、福祉に関わる法律がどうなるのか、注意深く見守っていく必要があります。また、消費税や原発問題に起因する電力問題など、普段の生活に直接関わる部分でも、この先不安なことばかりです。それでも、まずは目の前の利用者さんの「毎日の生活」が一番です。それを守りつつ豊かにしていけるよう、来年度も頑張っていきたいと思ひます。

## 木 言

同じ場所でも千年  
自由に動ける五十年  
多くのものを目にするのは  
世界の広さを感じるのには  
大木の前で考える  
同じ場所に留まっている  
自分自身に気づく